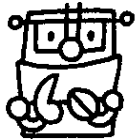




小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

血液が体内をひとめぐりすると、何回心臓を通るの^{しんぞう}

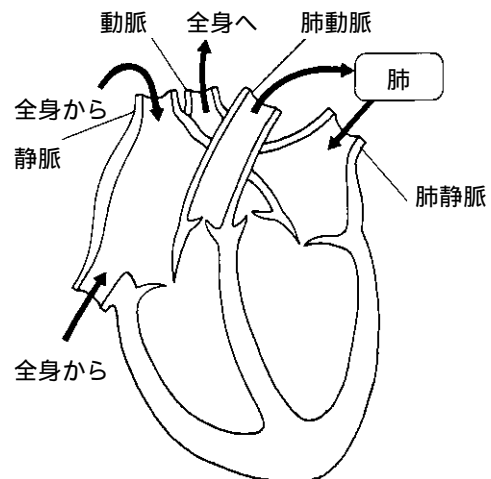


全身から心臓にもどってきた血液は、肺^{はい}に出て、肺から心臓にもどり、また全身に出ていくので、2回心臓を通るのさ。

体のすみずみまで血液が回るように、血液をおし出すポンプの役目をするのが、心臓です。おし出された血液は、体の各部分に栄養分や酸素を配り、かわりに各部分でできた二酸化炭素などを受け取って、心臓にもどってきます。このもどってきた血液は、酸素がへり二酸化炭素が多いですから、肺にこの血液を送って、二酸化炭素と酸素を交かんしなければなりません。肺で新しい酸素を受け取った血液が心臓にもどってくると、心臓がこれを、また全身に送り出します。だから、血液は何回心臓を通るかといえば、2回通るといえます。

心臓から血液が出るのは動脈、入ってくるのは静脈

心臓から血液が出ていく血管を動脈といい、心臓に入ってくる血管を静脈といいます。皮ふの表面近くに見える血管は静脈で、見えにくいけれど手首などに指を当てると、ドックドックと脈を打っているのがわかるのは動脈です。心臓から肺に出ていく血管は肺動脈、入ってくる血管は肺静脈といいます。動脈は、酸素がたっぷり入った血液が流れ、静脈は二酸化炭素が多い血液が流れています。ぎゃくに、肺動脈は二酸化炭素が多く、肺静脈は酸素をたくさん受け取ってきた血液が流れています。



< 心臓と血液の流れ >